

<p>3日 (日)</p> <p>ホセア 9章</p>	<p>「裁きの日が来た。決裁の日が来た。イスラエルよ、知れ」(7節前半)。主から目を背けながらも、主をたたえる私たち。主の時には、「義さ」が示されるが、それまで私たちは現実を見ることができない。主よ、私たちに、裁かれる勇気を与えてください。そして、主の義さの前にへりくだる者としてください。</p>
<p>4日 (月)</p> <p>ホセア 10章</p>	<p>「恵みの業をもたらす種を蒔け。愛の実りを刈り入れよ。新しい土地を耕せ。主を求める時が来た。」(12節)。豊かになりすぎてしまった主の民は、豪華さに心を奪われてしまう。主はその民の姿に懲らしめを与える。主は私たちに驕りを砕き、主の恵みを正しく蒔き、正しく刈り入れることを教えてください。</p>
<p>5日 (火)</p> <p>ホセア 11章</p>	<p>「ああ、エフライムよ／お前を見捨てることができようか。イスラエルよ／お前を引き渡すことができようか。」(8節前半)。主に背き続けるイスラエルへの怒りを持ちながらも、見捨てることができず、イスラエルのことを想い続ける神の愛は、私たちにも注がれている。主の愛に立ち帰る者とされたい。</p>
<p>6日 (水)</p> <p>ホセア 12章</p>	<p>「神のもとに立ち帰れ。愛と正義を保ち、常にあなたの神を待ち望め」(7節)。私たち人間は搾取を愛する。搾取の対象は、命、権利、力、人格…。神の愛と正義と出会う時、搾取するわたしの「罪」と出会う。ヤコブが泣いて主に恵みを乞うたように、私も主の前に頭を垂れ、へりくだり、主の恵みを乞う。</p>

<p>7日 (木)</p> <p>ホセア 13章</p>	<p>「養われて、彼らは腹を満たし、満ち足りると、高慢になり、ついにはわたしを忘れた」(6節)。神の恵みは、日々新たにされ、私たちに注がれる。「主の慈しみは決して絶えない。主の慈しみは決して尽きない。それは朝ごとに新たになる」(哀歌 3:22-23)。主の慈しみによって、わたしたちの信仰も日々新たにされて。</p>
<p>8日 (金)</p> <p>ホセア 14章</p>	<p>「イスラエルよ、立ち帰れ。あなたの神、主のもとへ。あなたは咎につまずき、悪の中にいる」(2節)。主の怒りを知って初めて、私たちは主の愛の深さ、広さ、長さを知ることができる。主の正しい道を知るためには、主のもとに立ち帰り、主の知恵に頼むほかない。主の道につまずくのではなく、その道を歩めますように。</p>
<p>9日 (土)</p> <p>ヨエル 1章</p>	<p>「老人たちよ、これを聞け。この地に住む者よ、皆耳を傾けよ」(1節)。主から離れている現実を、見つめよとの主の呼びかけに、私たちは答えることができるだろうか。主の日は恐るべき日、全能者がそのすべてを破滅する日。私は、裁きと向き合う準備が来ているだろうか。真の礼拝者として、整えられるよう祈ります。</p>
<p>10日 (日)</p> <p>ヨエル 2章</p>	<p>「今こそ、心からわたしに立ち帰れ。断食し、泣き悲しんで。衣を引き裂くのではなく、お前たちの心を引き裂け。」(12-13 節)。神の前に何を泣き悲しむべきなのかを理解できていない私たち。その私たちのために主イエスは代わって泣き悲しまれた (ルカ 19:41)。主イエスが涙された意味を今日、教えてください。</p>